

第3章 テーマと目標

【テーマ】

清流文化と変化する地形が織り成す景観の保全と創造

釈迦岳、御前岳、三国岳を源流とし、有明海へ注ぐ矢部川水系は、上流域の山間部では山並み景観、平野部や丘陵部では山並みを背景とする広がりのある田園景観、下流域では堀割・クリークが創り出す水郷景観、河口域では干拓と干潟が広がる潮の干満で大きく変化する有明海特有の干潟景観を創り出し、上流域から下流域にわたって、地形、自然、生態系の変化を反映して移り変わる景観を楽しむことができます。

また、古より繁栄してきたとされる矢部川流域では、清流や水資源、水運が農林漁業の様々な営みを育み、五穀豊穡や雨乞い、水難等を祈願する祭事、神幸行列など流域独特の清流文化を培ってきた結果、四季折々に繰り上げられる永年の人々の営みと清流文化の蓄積が結晶化して、固有のま

ちなみ景観や田園景観が形づくられてきました。

矢部川流域の景観は何よりも、流域の変化に富んだ地形や生態系が創り出す環境と、清流の恵みと人々の永年の営みが育んできた清流文化が重なり合い、織り成して創り出されてきたことに特色と意味があります。これらの「素晴らしい景観」こそが、かけがえのない流域の魅力です。

そのかけがえのない魅力を失わないために、流域の景観を改めて見つめ直し、個々の景観を流域全体の共有財産として、後世へと継承していく必要があります。また、故郷の原風景、心象風景として北原白秋や坂本繁二郎など芸術家らが愛した景観を守り、地域振興や観光まちづくりの資源として活かしながら、新たな魅力ある「素晴らしい景観」を協働して育てていきます。

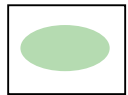
【景域・軸・拠点および目標とする景観像】

地域の特性を踏まえ、流域全体の共通テーマにもとづき、各景観領域（景域）・軸・拠点の目標とする景観像を以下のとおりとします。



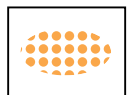
山の景域

山々に広がる自然景観や多くの人々が故郷の思いを抱く原風景を今も残す農山村集落の景観を保全し、将来にわたり美しい景観を継承していく領域



丘の景域

丘陵部に広がる自然と調和した田園景観、集落景観、市街地景観を将来に渡り保全していく領域



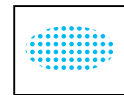
谷あいの景域

歴史的な遺産や地域の伝統文化を継承し、身近に臨む自然景観と共に息づく農山村集落・まちなみ景観を保全・創造する領域



田園の景域

背後に広がる筑肥山地等の山並みへの眺望を確保し、広がりのある田園景観や落ち着きのあるまちなみ景観を保全・創造すると共に、矢部川の恩恵によりもたらされた伝統産業や地域文化と関わり深い景観を継承する領域



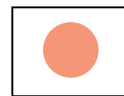
堀割・クリークの景域

堀割・クリークが創り出す水郷景観を保全・創造すると共に、四季折々に行われる祭や行事が創り出す文化的な景観を継承していく領域



干拓地の景域

広がりのある田園景観を保全すると共に、歴史的な干拓の遺構や海岸線を臨む有明海の眺望、流域の営みを育む漁村景観を保全・創造する領域



まちの景域

四季折々に行われる祭や行事、伝統産業が創り出す文化的な景観を保全し、また中心市街地としての賑わい景観や落ち着いたまちなみ景観を創造する領域



河川の軸

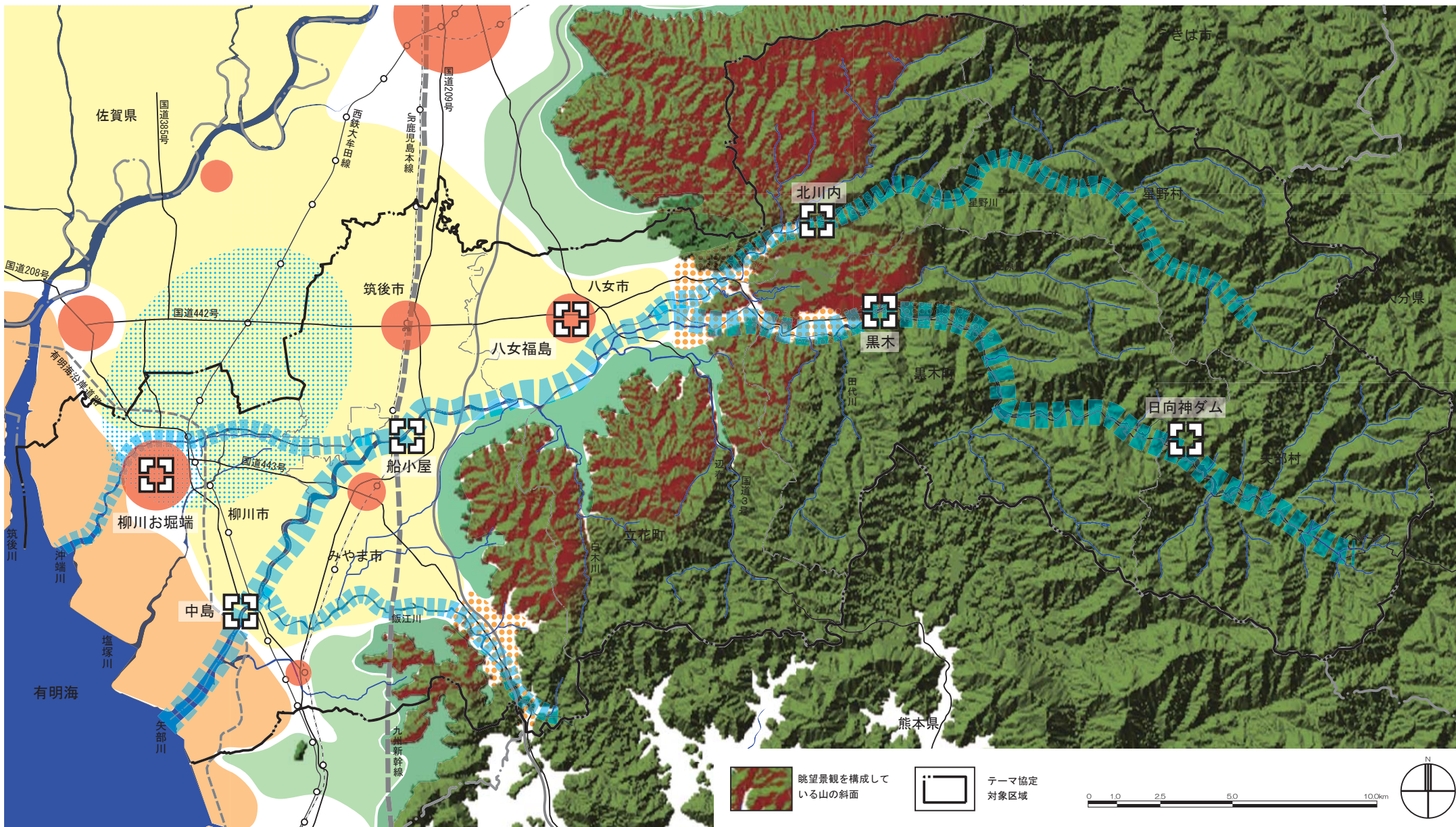
矢部川等の清流に親しむ空間とそこから見ることのできる眺望景観や河川沿いの変化に富んだ魅力的な景観を保全・創造する軸



矢部川流域の象徴となる拠点

流域の豊かな自然や伝統文化を継承し、それらが融合して創り出す矢部川流域ならではの固有の景観をもつ象徴的な拠点区域

景域・軸・拠点の構成と景観像



目標 1

矢部川流域に広がる「地形や大自然とのつながりを感じる景観」を守り・育てる

矢部川流域では上流域から下流域にかけ、地形や大自然が大きく変化する景観が広がっています。干拓地や平地に広がる田園や山並み、中流域に群生する緑や蛇行する河川の水面、山々が迫る上流の渓谷などの雄大な自然景観を流域にかけがえのないものとして後世に継承していくことを目指します。

また、山々での樹氷や樹木・草花などが四季折々の豊かな景観を演出し、川霧や雲海、夕日など朝夕の現象をもたらす独特の景観や変化の彩りを体感できる景観を将来にわたり継承していきます。

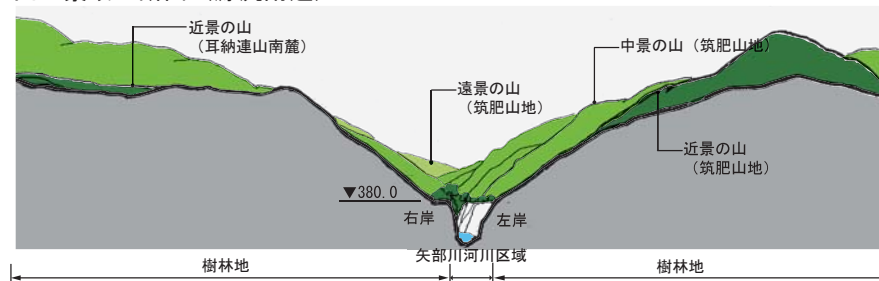


樹氷に包まれた御前岳（矢部村）

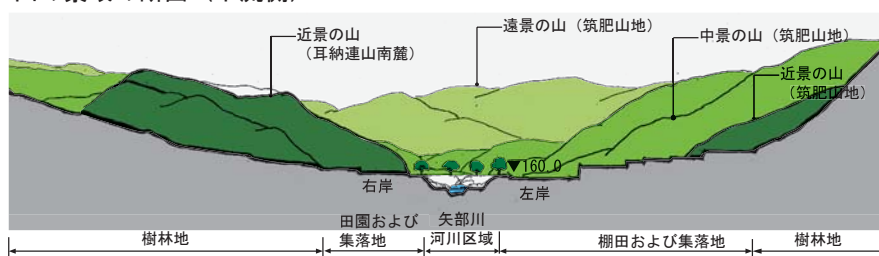


矢部川は現在も自然堤防のままの護岸が多く残る。

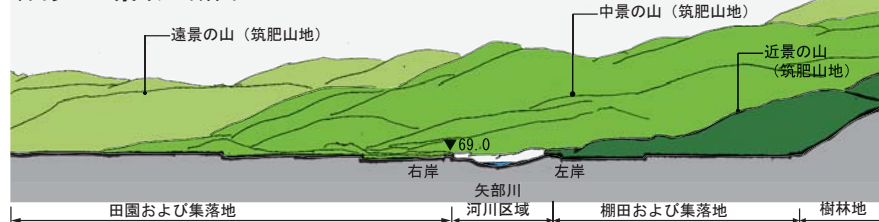
山の景域の断面（源流附近）



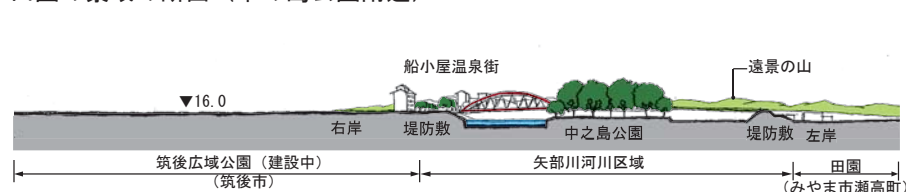
山の景域の断面（下流側）



谷あいの景域の断面



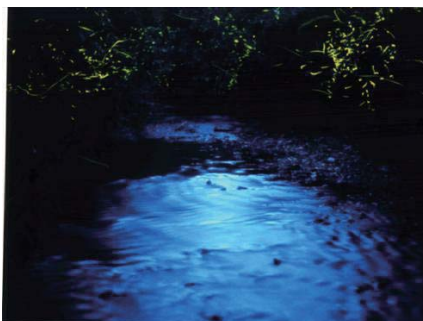
田園の景域の断面（中の島公園附近）



目標2

清流とその水辺に棲む「生態系と共に生きる景観」を守り・育てる

矢部川流域には豊かな自然環境が数多く残っています。上流域では自然堤防が多数残存し、多様な動植物が生息しています。そこに棲む山太郎ガニやホタル、シャクナゲ群落などの動植物たちが河川環境や里山など自然環境を支える豊かな生態系を構成し、流域の景観に彩りを与えています。水環境をはじめとする流域の自然環境や多様な生態系と共存し、美しい自然景観を継承していきます。



辺春川上流のホタルの生息地（立花町）



釈迦岳御前岳の自然林（矢部村）



手入れされた竹林。人の手が入ることにより生息環境も維持される。（立花町）



多様な動植物が生息する二ツ川。（柳川市）

目標3

水系が育んできた「文化・歴史・営みが織り成す景観」を守り・育てる

矢部川流域では、治水・利水における闘いとともに、矢部川水系の恩恵を受けながら各地で個性豊かな文化・歴史や人々の営みが育まれてきました。矢部川が刻んできた「水争いの歴史」と先人の智恵を物語る千間土居等の治水の構造物、上陽の石橋群、また清流と水運によりもたらされた文化や営みを今に伝えるまちなみや掘割景観など、これら多彩で豊かな景観資源の魅力を高め、活かしながら、後世に継承していきます。



子ども達の水難祈願として行われている沖端水天宮祭（柳川市）



矢部川沿いを通っていた街道（豊後別路）沿いの黒木の歴史的町並み（黒木町）



上陽の石橋群辺りで地域おこしとして行われている万灯流し（八女市上陽町）



岩崎子ども川まつり（八女市）

